

平成 29 年度 第 2 回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

I. 開催概要

1. 開催日時 2017年(平成29年)8月10日(木)午後4時～5時30分

2. 開催場所 藤沢市保健所3階 研修室

3. 出席者

(1) 委員=19人(欠席5人)

小林 邦芳, 木原 明子, 大島 崇弘, 吉田 展章, 齊藤 祐二,
島村 孝子, 児玉 文卿, 中嶋 利浩, 西川 朋子, 宮部美佐子,
木村 依子, 北島 令司, 市川 勤, 田場川善雄, 亀山 悟,
倉持 泰雄, 向 泉, 片山 睦彦, 吉田 耕一(関根委員代理)

(2) 事務局=22人

地域包括ケアシステム推進室 平井(室長), 三ツ井(主幹), 新井(主幹), 内田(主幹),
齊藤(室長補佐), 越川(室長補佐), 濱野(室長補佐), 神崎(上級
主査), 一瀬(主査), 糊澤(担当), 小野(担当)

福祉健康総務課 蓑原(参事), 日原(主幹)

介護保険課 寺田(参事), 大塚(主幹)

障がい福祉課 安孫子(参事), 佐藤(主査)

市民自治推進課 宮原(参事)

子育て企画課 福岡(参事)

藤沢市社会福祉協議会 村上(課長), 樋口(課長補佐・CSW), 垣見(生活支援コーディネーター)

(3) 傍聴者= 0人

4. 議題等

1 開会

2 議題

【第1部】情報共有等

(1) 平成29年度6月議会定例会への報告内容について

(2) 重点テーマごとの専門部会及び分科会の開催状況について

(3) 地域共生社会の実現に向けた国の動向及び地域福祉計画の中間見直しについて

① 地域共生社会の実現に向けた国の動向について

② 藤沢市地域福祉計画2020の中間見直しにかかる藤沢型地域包括ケアシステムの位置づけについて

【第2部】相談に関するまとめ

(4) 推進会議における『相談』をテーマとした検討状況等のまとめについて

(5) その他

3 閉会

Ⅱ. 会議の概要（議事要旨）

- 1 開 会
- 2 議 題

【第1部】 情報共有等

(1) 平成29年度6月議会定例会への報告内容について

- ◆事務局から報告について説明を行った。また市社会福祉協議会の倉持委員よりコミュニティソーシャルワーカー（CSW）について説明があった。

代 表 説明がおわりました。ご意見がありましたらお願いいたします。

委 員 CSWについて、鶺鴒にも配置されていて大変いいことですから、ぜひ全地区に配置されることを期待しています。またこの活動を広く地域で知ってもらえるように、地域でお話しいただく機会が増えればよいと思います。

委 員 CSWについて、一般の市民への周知が足りない部分がありますので、今後ともPRを進めていっていただきたいと思います。

(2) 重点テーマごとの専門部会及び分科会の開催状況について

- ◆事務局から説明を行った。

代 表 事務局から説明がありました。ご意見がありましたらお願いいたします。

委 員 重点テーマ②の地域活動の支援についてに関連するところで、今までよりも愛の輪の手続きが煩雑になり、金額も変わるケースがあるなどの問題が起きています。ぜひ、専門部会で検討していただき、金額が大きく減ってしまった、ということのないようにしていただきたいと思います。

事務局 推進会議のみでなく、庁内検討委員会でも同様の意見がありました。地域活動の妨げにならないような形で、関係する課や市社協で、検討していきたいと思ひます。

委 員 19ページのところで、分科会の移動支援については、免許返納の問題もありますので、買い物支援等、返納後の支援について検討する必要があると思ひます。

また、国道を横断するのに、歩道橋しかなく高齢者が渡りにくい道路があります。高齢者が今後増えていく中でそういった問題にも対応していく必

要があります。

空き家対策について、防犯パトロールをしていると、十数年も住んでいないところがあります。権利関係等課題があるのもわかりますが、行政の中で連携をとりながら、スピード感をもって進めていただきたいと思います。

事務局 免許の自主返納について、社会的な課題となっていることは重々承知しているところです。推進室・市民自治推進課・都市計画課の移動支援の分科会に防犯交通安全課を加え、検討を進めてまいります。

歩道橋については、移動手段の分科会の中でご意見として報告させていただきたいと思います。

また、空き家についても、課題感は家によって様々ですが、地域住民の不安を解消できるような形で、スピード感をもって、検討を進めていきたいと考えております。

委員 移動支援のところで、社会福祉法人の車両を昼間利用することを検討するとありますが、デイサービスだけを運営しているわけではありませんし、ショートステイやケアマネの利用などがあるので、難しいかと思えます。

事務局 市内全ての社会福祉法人にお願いできるとは考えておりませんが、いくつか相談している中で、可能性はある、と言ってくださっているところもあります。ただ、車はあっても運転する人はいない、など、課題も多々ありますので、必ずこれを進めるというわけではなく、今後移動の問題が深刻になっていく中の課題解決の一つの方法として、検討していきたい、というものになりますので、ご理解いただければと思います。

委員 買い物弱者という視点でみると、移動支援は移動支援として進める必要はあると思いますが、移動支援があっても出かけられない方のために、民間のスーパー等とタイアップして配達の仕事を作るなど、移動支援以外も大切だと思います。

事務局 移動支援に限定するのではなく、移動できない方への支援も考えていかなければいけません。そのために民間の活力を利用していくことについて、藤沢市としてもこれからの課題として考えておりますので、検討を進めていきたいと思えます。

委員 在宅生活の支援について、在宅医療の相談窓口として障がい・子どもの分野についても、今後検討が進んでいくことを期待しています。特に若い障がい者は、18歳までは市民病院や子ども医療センターにいられますが、20歳

くらいまでに移行を迫られてしまいます。在宅で治療していくにも専門的な治療を続けていくための病院が近くにない、また障がい特性を理解していただいていないために、別の病気の治療を近隣の病院で受けられない、という話も聞いています。このような課題を踏まえて、相談体制を充実していただきたいと思います。

委員 元々の疾患・障がいのある方が高齢化していく、ということに社会が初めて向き合う必要が生じてきています。これまであまり想定されていなかった、幅広く取り扱っている小児科から、それぞれおれの分野に分かれていくところの連携について、考える必要があります。

また相談支援について、庁内会議だけではなく、医療の現場や福祉の現場の方がそういう問題に対して解決を図るためのオフィシャルな会議体を作っていたいただきたいと思います。

委員 新しい課題に直面しているというお話ですが、それぞれの医師がその専門医と協力していくような形が、今は通常診療情報提供書で行われていますが、今後はより顔が見える形で行えるとよいと思います。行政だけでなく、医師会としても、仕組みづくりを推進していければよいと感じました。

(3) 地域共生社会の実現に向けた国の動向及び地域福祉計画の中間見直しについて

- ① 地域共生社会の実現に向けた国の動向について
- ② 藤沢市地域福祉計画2020の中間見直しにかかる藤沢型地域包括ケアシステムの位置づけについて

◆片山副代表から①について、事務局から②について説明を行った。

◆質問・意見等、特になし

【第2部】相談に関するまとめ

(4) 推進会議における『相談』をテーマとした検討状況等のまとめについて

◆事務局から説明を行った。

◆質問・意見等、特になし

(5) その他

代表 その他ご意見がありましたらお願いいたします。

委員 医師会の中で何をしていけばよいかを考え、藤沢型地域包括ケアシステムに

ついてパンフレットを使用して説明を試みたときに、図の具体的な要素が並べられている中に、医療機関という言葉がありません。啓発を進めていく中で、求められる役割があることがわかるということが必要だと思いますので、次回こういった資料を作成する際にまた検討していただければということ、意見として伝えさせていただきます。

事務局 包括ケアを進めるにあたって、藤沢市全体でやっていくという思いを共有するためにも、描き方の部分につきましては、意見を伺いながら、今後も検討していきたいと思えます。

委員 民生委員100周年を迎え、民生委員としても藤沢型の理解度を深め、取組を進めていきたいと考えています。

委員 担い手ということに抵抗感を持っている方は多いです。地域の老人会なども使命感を持って、担い手の養成を考えていますが、地域住民の皆さんに、受け入れてもらうための啓発活動を行うことが非常に重要だと思います。

委員 この会議は非常に幅広いテーマを取り扱っていますが、特に福祉や障がいなどが非常に大きなウエイトを占めていると感じています。認知症のオレンジプランなどもこの会議とは他のところで進めていくという理解なのか、推進会議で進めていくという理解なのかについてお伺いしたいです。

事務局 認知症であれば推進会議で議論するよりもその分野に特化した会議の中で、また例えば健康であれば健康づくり推進会議で進めて、そこが縦割りにならないように推進会議にあげるような形になればと考えております。また、庁内さまざまな会議に推進室の職員が出席しており、専門部会や分科会で会議の内容を生かせるような体制をとっております。

事務局 会議のあり方という面で捕捉をします。任期3年という形で平成27年からスタートしましたこの推進会議は、13地区ごとの特性を生かした全世代・全対象型の、藤沢型包括ケアを進めているところです。国も地域共生社会に向けた様々な制度改革を進めているところで、推進会議の役割や、今後どういった部分を取り上げていくのか、などを第3回・第4回の議事の中に少しづつ入れて、検討していきたいと考えています。また、様々なご意見をいただいているところですが、本日お示しした専門部会・分科会を進める中でのアイデアについても、ぜひお出しいただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

◆事務局からおれんじキャンペーンのチラシについて説明を行った。

委員 シンボルカラーをオレンジにした理由は何かあるのでしょうか。

事務局 市の職員もつけていますが、認知症サポーター養成講座を修了した方にオレンジのリングをお渡ししています。このオレンジ色をシンボルカラーとしているものです。

3 閉 会

◆事務局から閉会のあいさつを行った。

以 上